

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0270202138
法人名	株式会社 三輪商事
事業所名	グループホーム薫風舎
所在地	青森県弘前市大字大久保字西田105-42 (電 話)0172-37-8800
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年12月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算	12.47人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 ~2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成20年12月17日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.9 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金子内科クリニック(内科) 波多野歯科医院(歯科)
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天気の良い日には岩木山や八甲田山がきれいに見える閑静な住宅街の中にホームが設置されており、向い側には小学校があり、いつでも子供たちの賑やかな声が聞こえてきそうである。

小学校との交流は頻繁に行われていることで、少しずつ地域住民との交流にも広がりを見せ、町内会行事は勿論、普段からの住民とのコミュニケーションもよくとれている。

また、この法人の特徴でもある利用者に対するアロマテラピーによる認知症予防や、健康体操等の実践的な取り組みも行われている。

「利用者は人生の大先輩であり、職員は利用者と共に過ごす家族である」という考え方の基、日常の会話の中から利用者の得意分野を引き出しており、利用者が主体となり、職員が支えるというスタイルで、一緒に楽しんでおり、共に支えあう関係を築いている。

ホーム長以下職員との連携やコミュニケーションもよくとれていることから、利用者の笑顔や笑い声も多く聞かれ、安心して日々思い思いに生活できる環境にある。

【特に改善が求められる点】

地域密着型のサービスを理解し、実践されていることから、理念を地域密着型サービスを意識したものを加えることに期待したい。

計画的な職員の質の向上に繋がるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。

災害時に備え、利用者の数日分の食料や寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。

栄養バランスに配慮された献立を作成するために、定期的に栄養士等の専門家から指導や助言を得られるような体制づくりに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を全職員で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。 また、地域密着型サービスの役割についてを現在の理念に盛り込むべきかどうか等話し合いを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでおり、評価の意義を理解するとともに、前回の評価結果を基に職員全員で話し合い、より良いケアサービスに繋がるよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営会議を基本的には2ヶ月毎に開催し、行政職員や小学校教諭も加わり、活発な意見交換がされている。 日々のケアに必要な意見等は職員全員に周知し、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。また、自己評価の結果を運営会議で報告するとともに、外部評価についても公表している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、利用者の暮らしぶりを記載した職員手書きによる手紙を作成し、写真や金銭出納帳の写し、領収書などを添えて報告している。また利用者の健康状態を受診の都度電話により報告している。 玄関には意見箱を設置している。家族の面会が多く、面会時にどんなことでも気軽に話し合えるような雰囲気作りに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口が周知され、出された意見等はミーティング時等に話し合い、日々のケアに活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地域高齢者教室、小学校声掛け隊、夏祭りなどの行事に利用者と一緒に参加し、地域との交流を活発にしている。年間を通して小学校や周辺の保育所等との交流も盛んである。 また、町内の回覧板を利用し、ホームで介護や医療相談を行っていることを周知し、地域への認知症や介護に関しての啓蒙活動を行っている。外部の方が出入りする際は、利用者のプライバシーについて説明を行っており、十分配慮されている。</p>

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者及び職員は、開設当初より利用者を主体とした家族と共にあるホームづくりを念頭にサービスの提供を行っている。 理念は、ホーム内にも掲示されているほか、職員一人ひとりが理念の書かれた用紙を携帯しており、いつでも確認できるようになっている。また、理念を毎朝唱和することによって、全職員が理念を意識したケアサービスができるよう取り組んでいる。 職員を育てる取り組みとして外部研修や内部研修、文献利用など、職員の質の向上に努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを利用できるよう、入居前に入居希望者や家族が納得が行くまで何回でもホーム見学や説明を行っている。また、利用者や家族の意向を十分に把握し、利用者の視点に立った支援が行えるよう調整している。 日常の会話の中から料理、園芸、手芸、書道、カラオケなどの利用者の得意分野を引き出している。特に料理に関しては、利用者が主体となり、調理や盛り付け、配膳を行っており、職員は利用者を支え共に楽しんで生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者との日々の会話や観察を通して利用者の意見や要望を聞き出しているほか、ミーティングや担当者会議等で職員から出された意見や気づきも参考にしている。可能な限り家族もサービス担当者会議に参加し、思いや気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。 介護計画の見直しは3か月毎に行い、見直しの際には、毎日のモニタリングや毎月のアセスメントを参考に行い、記録している。 また、医療の充実のほか、アロマテラピーによる認知症の予防に積極的に取り組んでいる。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>日頃から利用者の行動や言動を注意深く見守り、否定することなく、プライバシーを損なわない声掛けや対応に努めている。また、利用者のペースに合わせた、利用者主体の生活を優先している。 ホーム内には公衆電話も設置され、ホーム外とのコミュニケーションをいつでも好きな時間にとれるようになっている。 職員は足音が気にならないような履物を使用し、利用者に不快感がないよう配慮しているほか、話し声やテレビの音量、ホーム内の明るさも適当であり、利用者が落ち着いて過ごせる環境になっている。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、職員全員で話し合い、事業所の誓いとして6項目にわたって、分かり易い文言の理念を作成しているが、理念に地域密着型サービスの役割を反映させるまでには至っていない。	○	地域密着型のサービスを理解し、実践されていることから、理念を地域密着型サービスを意識したものを加えることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示しているほか、職員一人ひとりが理念を書いた用紙を携帯しており、いつでも、どこでも確認している。また、毎朝申し送り後に唱和することによって、理念が毎日の実践に生かされるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者及び職員は地域との支えあいについて十分理解しており、町内会に加入し、地域高齢者教室、小学校声掛け隊、夏祭りなどの行事に利用者と一緒に参加し、地域との交流を活発にしている。年間を通して小学校や周辺の保育所等との交流も盛んである。また、通学の小学生が立ち寄り、近所の住民とのコミュニケーションもよく取れているほか、町内の回覧板を利用し、ホームで介護や医療相談を行っていることを周知し、地域への認知症や介護に関する啓蒙活動を行っている。外部の方々の出入りが多いので、身分の確認は勿論の事、口頭により利用者のプライバシーについて説明を行っており、十分配慮されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいについては、全職員に資料を配布したり、ミーティング時に説明するなどし、全職員が理解している。また、自己評価は全職員で取り組んでおり、前回の評価結果を基に職員全員で話し合い良いケアサービスに繋がるように話し合いを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を基本的に2ヶ月毎に開催し、行政職員や小学校教諭も加わり、活発な意見交換がされている。日々のケアに必要な意見等は職員全員に周知し、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。また、自己評価の結果を運営会議で報告し、外部評価についても公表している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連携については、運営推進会議のほか、ホームの情報を提供したり、問題が発生した際に助言を得るなどの連携を図っている。また、自己評価及び外部評価の結果も報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や内部での勉強会により繰り返し理解を深めるための取り組みを行っている。現在、地域福祉権利擁護事業等の利用者はいないが、必要に応じて家族や利用者が不利にならないよう情報提供や事業利用へ繋げることができるよう働きかけている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを作成しており、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についてのマニュアルも整備している。管理者は利用者に対するケア等を細かくチェックし、気がついた場合には、指導するなど、未然に防ぐよう心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前にホーム見学や説明をゆっくり時間をかけて行っている。また、本人や家族の意向を把握するために十分な話し合いをしている。契約改訂時や退居時には、利用者や家族と十分な話し合いにより、同意を得ている。退居時には情報提供を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりを記載した職員手書きによる手紙を作成し、写真や金銭出納帳の写し、領収書などを添えて報告している。また、利用者の健康状態を、受診の都度電話により報告している。職員の異動は開設から現在までで1名のみであり、利用者が混乱しないよう配慮され、家族への報告も行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している。家族の面会が多く、面会時にどんなことでも気軽に話し合えるような雰囲気作りに努めている。また、内部・外部苦情受付窓口が周知され、出された意見等はミーティング時等に話し合い、日々のケアに活かしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は異動等による利用者への影響を理解しており、利用者に不安感を抱かせないように十分な引継ぎを行っている。また、利用者にも十分に説明を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者等が職員の業務についての助言を行っている。また、運営者は、管理者や職員の質の向上を図る為に、外部研修、法人内研修、文献利用などを積極的に行っており、研修受講後は復命書を作成の上、伝達研修を行い全職員に周知することでサービスの向上に努めている。しかし、職員が経験や力量に応じた研修を受講できるように年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	計画的な職員の質の向上に繋がるよう、年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修への参加等を通じて、他ホーム職員との情報交換等が行われ、職員育成等に活かしている。また、知人等のネットワークを利用した情報収集にも積極的であり、サービスの質を向上させるための取り組みが行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、入居前に利用者や家族が納得が行くまで何回でもホーム見学や説明を行っている。また、利用者や家族の意向を十分に把握し、利用者の視点に立った支援が行えるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の会話の中から料理、園芸、手芸、書道、カラオケなどの利用者の得意分野を引き出している。特に料理に関しては、利用者が主体となり、調理や盛り付け、配膳を行っており、職員は利用者を支え共に楽しんで生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の会話や業務の中から思いや希望、意向の把握に努めている。また、意向が十分に把握できない場合は、全職員が利用者の視点に立って意向の把握に努めているほか、家族や関係者からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の会話や観察を通して利用者の意見や要望を聞き出しているほか、ミーティングや担当者会議等で職員から出された意見や気づきも参考にしている。可能な限り家族もサービス担当者会議に参加し、思いや気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月毎に行っている。また、職員は日々のケアを通して利用者や家族に希望の変化等が無いのか、観察や問いかけ等で把握しており、変化時には随時見直しを行っている。見直しの際には、毎日のモニタリングや毎月のアセスメントを参考に行い、記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制による医療体制の充実のほか、病院受診や買い物、散歩、町内行事の参加など利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、外部からの有資格エステティシヤンの指導により、アロマセラピー等を実施するなどの取り組みを行っており、認知症予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況はアセスメントや家族からの情報により把握している。また、利用者や家族の希望に沿った医療機関の受診支援を行っている。更には、協力医療機関と連携を密にし、いつでも相談できる体制になっている。受診結果はその都度家族に報告し、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関わる指針」を基に利用者及び家族の意思を確認し、医療機関等との話し合いも持ちながら意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から利用者の行動や言動を注意深く見守り、否定することなく、プライバシーを損なわない声かけや対応に努めている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報に関する書類等は事務室に適正に管理していると共に、介護記録ファイルの背表紙などは、名前記載ではなく居室名で整理するなどの配慮を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた利用者主体の生活を優先している。また、起床、食事、入浴、就寝時間など、利用者のその日の体調や希望などに合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に配慮した献立を作成している。また、調理から食事がテーブルに並ぶまでの作業を利用者が主体となり行っている。食事は、職員も一緒にテーブルを囲み、利用者のサポートや声かけをしながら、楽しく食事ができるよう支援しており、片付けも職員と一緒にしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については曜日や時間帯についての取り決めが無いので、いつでも入浴できる体制となっているほか、羞恥心等にも配慮し、希望により同姓介助で支援している。入浴を拒否する利用者には、温泉に誘ったり、アロマテラピーでの足浴を進めるなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントや毎日の会話、さらには家族からの情報により利用者の希望や力量を把握している。また、利用者個々の得意とする趣味や家事、園芸などの活動を支えながら共に喜び、楽しみにつながるような支援や働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常会話を通じて利用者個々の外出希望を引き出しており、毎日外出の機会を設け、気分転換を図っている。また、少し遠出になる場合は、利用者の身体状況や気分に合わせて支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを整備しており、全職員が理解・周知し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、拘束期間を定め記録に残す体制が整っているほか、家族から同意を得ている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っておらず、利用者が自由に出入りできるようになっている。また、利用者の外出傾向を察知した時には職員が付き添う体制になっている。更に、無断外出に備えて、回覧板等により近隣の方々や小学校へも協力依頼を行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防災マニュアルを作成しており、様々な有事に備え毎月防災訓練を行っている。また、災害時には、地域住民からの協力が得られる体制が整っている。災害発生時に備えて飲料水が用意されているが、食料や寒さをしのげる物品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備え、利用者の数日分の食料や寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は必要に応じて把握しているほか、水分摂取量は、脱水予防のため記録し把握している。献立については嗜好に配慮した献立中心となっており、栄養士等の専門家から指導や助言を得られる体制が整っていない。	○	栄養バランスに配慮された献立を作成するために、定期的に栄養士等の専門家から指導や助言を得られるような体制づくりに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成され、マニュアルや新しい情報に基づき勉強会を行い、全職員に周知徹底されている。また、ホーム内外出入りのある人にも、手洗い、うがいの励行を促すほか、インフルエンザの予防接種など予防に努めている。更には、家族にも感染症等の情報を周知するなどして感染予防に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ソファ、テーブル、椅子、畳があり家庭的な雰囲気になっている。職員は足音がしないような履物を使用し利用者に不快感がないよう配慮しているほか、話し声やテレビの音量、ホーム内の明るさも適当であり、利用者が落ち着いて過ごせる環境になっている。また、季節にあった絵や観葉植物があり、十分に季節感を感じることができる。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れ親しんだ家具、寝具、テレビ、冷蔵庫、仏壇などが持ち込まれており、その人らしい心地よい居室作りを職員と一緒にやっている。		

※ は、重点項目。